

プロセス・トライボロジー分科会委員各位

主査 北村 憲彦

プロセス・トライボロジー分科会第143回研究会（見学付き）のご案内

貴社益々御盛栄のこととお慶び申し上げます。平素より当分科会事業に御理解ならびに御協力頂きありがとうございます。さて、第143回の研究会を下記の予定で開催します。研究会のテーマは「塑性加工用超硬合金金型および金型表面処理技術の開発動向」です。現在、一段と難加工化が進む各種塑性加工プロセスにおいて、金型素材および金型表面処理の果たす役割は重要です。本研究会では、超硬合金金型および金型表面処理技術の開発動向をトライボロジー特性に着目して紹介いただきます。つきましては御参加頂けますようご案内申し上げます。

（委員の代理の方の参加も可能です。委員（代理）以外の方のオブザーバー参加（参加費¥3,000）も受け付けます。）

日 時：平成27年1月19日（月） 13:30～16:35
会 場：ダイジェット工業（株） 本社工場
〒547-0002 大阪府大阪市平野区加美東2-1-18
交 通：JR関西本線加美駅もしくはJRおおさか東線新加美駅
より徒歩約15分

第143回研究会：

- (1) 主査挨拶（13:30～13:35）
- (2) 話題提供（13:35～15:15）（質疑各5分程度含む）

13:35～14:05 「超硬金型表面のディンプル加工の開発」

ダイジェット工業（株）梶岡 彰 君

従来、超硬金型表面は鏡面度を追求してきたが、今回は当社が新たに開発した、潤滑液の保持性を高め、耐焼付き性の向上および加工荷重の低減が図れる、新しい金型表面機能について説明する。

14:05～14:35 「炭窒化チタン系新硬質金型材料の開発」

ダイジェット工業（株）森 章司 君

超硬合金はWC、Coを主成分としているが、いずれもレアメタルであり、将来の安定確保に懸念が有る。弊社が開発したこれらのレアメタルを使用しない新しいジャンルの硬質材料であるTiCN系の新材料サーメタル（CT500）について説明する。

14:35～15:05 「硬質被膜の金型への適用動向と今後への期待」

岐阜大学 土屋 能成 君

超硬合金を母材にした被覆材の特性について従来の知見をまとめるとともに、最近の企画行事で紹介された硬質被膜の金型への適用事例を整理し、ユーザーの立場から硬質被膜に対するニーズや課題を述べる。

- (3) ダイジェット工業（株）本社工場（15:15～16:30）

見学内容：超硬合金工具の製造工程

*同業者の方のご見学はご遠慮いただく可能性がありますので、ご了承下さい。ご遠慮いただく場合は1/9以降、1/16までにご連絡いたします。

- (4) 主査閉会挨拶（16:30～16:35）



申込先：tmkhaya@ipc.shizuoka.ac.jp

(1) 御氏名, (2) 御所属, もし連絡先 (住所, 電話, ファックス, e-mail等) に変更がありましたら, お知らせ下さい.)

申込締切：1月9日 (金) 17:00